

ISSN 1882-9511

THE AICHI-GAKUIN JOURNAL OF PHARMACEUTICAL SCIENCES

愛知学院大学薬学会誌

Volume 16
February 2024

愛知学院大学薬学会

**THE AICHI-GAKUIN SOCIETY OF
PHARMACEUTICAL SCIENCES
NAGOYA JAPAN**

ISSN 1882-9511

愛知学院大学薬学会誌

第16巻 2024年2月

THE AICHI-GAKUIN JOURNAL OF PHARMACEUTICAL SCIENCES

Volume 16 February 2024

愛知学院大学薬学会
THE AICHI-GAKUIN SOCIETY OF
PHARMACEUTICAL SCIENCES
NAGOYA JAPAN

巻 頭 言

イチロー氏、さすがです！

薬学研究科主任 神野 伸一郎

昭和 53 年生まれの私の学生時代は、公立中学は丸刈り強制のブラック校則、何事もまずは気合いと根性で頑張るスタイルが中心であった。そんな感じなので、先生や先輩に厳しく指導され、愛のムチを受けることもたまにあったようななかったような？ 高校に入学するとバブルが崩壊し、就職氷河期、ロスジェネ世代と不名誉な呼び名が浸透している。

さて私の世代の愚痴は置いて、本巻頭言では、憧れのヒーロー、イチロー氏が、高校生に指導を行った際に話していた、こんな心に響く言葉をお伝えしたい。「今の時代、指導する側が厳しくできなくなって。何年くらいなるかな。(中略)これは酷なことなのよ。高校生たちに自分たちに厳しくして自分たちでうまくなれって、酷なことなんだけど、でも今そうなっちゃっているからね。(中略)ある時代まではね、遊んでいても勝手に監督・コーチが厳しいから全然できないやつがあるところまでは上がってこられた。やんなきゃしょうがなくなるからね。でも今は全然できない子は上げてもらえないから。上がってこられなくなっちゃう。(スポニチ記事より引用)」

最近の若い世代は、自分らしさを重視する、ストレス耐性に弱い、褒めて伸ばせ、といった特徴をもつと言われている。またハラスメントの言葉に守られ、理不尽な規律や規則などを受けなくても良い。根性論や社畜精神が染みついている私にとって、これからの日本、こんなんで大丈夫？ と心配に思うことも多い。一方で、大谷翔平選手や藤井聡太棋士が現れ、サッカー選手の多くが、リアルキャプテン翼として世界のトップリーグで活躍しているなど、叱り叱られ教育の我々では想像もできない規格外の人材が活躍している世代でもあり本当に凄い。この矛盾はなぜ？ と、いつも疑問に感じていたが、イチロー氏の言葉でその理由がよくわかった。つまり大谷選手をはじめとした彼らは、誰に言われなくとも、夢や目標の達成に向かって、自分自身を厳しく律して磨き上げることができる「自律モンスター」である。それにより様々な事に対してタフになり、能力やポテンシャルが大きく開放されたのだと考えれば納得できる。

日本社会全体に閉塞感が漂い、夢をもちにくい時代である。薬学も然り、薬剤師国家試験や第三者評価といった現実的な話ばかりが先行し、好きなことに打ち込む雰囲気や環境作りが後回しされているのかもしれない。こんな不安定な時だからこそ、自らを律し奮い立たせてくれる夢や目標をもつことが最も大切であり、それは愛知学院大学薬学部・薬学研究科が次の未来に羽ばたく大きな原動力になると信じている。

—目 次—

・巻頭言

イチロー氏、さすがです！ 薬学研究科主任 神野 伸一郎

・総説

一般総説

がん専門薬剤師の誕生と育成の歴史、臨床における役割 河原昌美 1

・新任教員の挨拶と紹介

新任教授のご挨拶 16

新任教員紹介 17

・学会報告

学会参加報告

日本薬学会第 142 年会 吉田弥礼、他 4 名 20

日本医療薬学会第 5 回フレッシュャーズ・カンファランス 加藤武瑠 21

第 51 回複素環化学討論会 川久保暢人、他 7 名 22

第 48 回 反応と合成の進歩シンポジウム 上田梨奈、他 4 名 24

第 49 回有機典型元素化学討論会 小柳アリス、他 4 名 25

日本薬学会第 143 年会 杉浦 彩方、他 3 名 27

日本薬学会第 143 年会 莊智翔、他 3 名 28

日本薬学会第 143 年会 橋本沙奈、他 3 名 30

米国薬学研修報告

水谷めぐみ 33

山下侑里乃 35

山本摩弥 37

池田早伽 39

三宅梨也乃 41

村上千裕 43

橋本沙奈 45

船本真吾 47

柳澤真希 49

・医療生命薬学研究所報告

2023 年度医療生命薬学研究所組織および助成	52
第 10 回サイエンスフォーラム プログラム	54
第 10 回サイエンスフォーラム 研究成果発表要旨	
蓄尿障害に対する牛車腎気丸の治療効果の解明	
山本清司、波多野紀行、鈴木裕可（地域連携研究ユニット）	55
薄層クロマトグラフィー法と表面増強ラマン散乱の活用による簡便かつ迅速な新規血中薬物濃度測定法の開発	
安藤基純、安永峻也（医療生命薬学研究ユニット）	57
アルツハイマー型認知症におけるオレキシンの関与とオレキシン受容体拮抗薬の効果の検討	
羽田 和弘、大井 義明（医療生命薬学研究ユニット）	59
ヘリコバクター・ピロリ除菌患者の属性及びライフスタイルとその病態及び除菌の成否等との関連の解明	
尾関 佳代子（地域連携研究ユニット）	61
脳への薬物送達向上を目指したシクロデキストリン類を利用した非経口投与製剤の設計	
小川 法子（医療生命薬学研究ユニット）	63
最終学年時において効果的に学習効果を上げる勉強方法の探索	
波多野紀行、浦野公彦（高等教育研究ユニット）	65
個別化学習指導のための、学修成果予測システムの構築	
小幡 徹（医療生命薬学研究ユニット）	67

・各種委員会報告

国際交流委員会活動報告

米国薬学研修引率報告	河村好章、松村実生	70
韓国薬学研修引率報告	河原昌美、李辰竜	73
韓国薬学研修報告	伊藤萌乃	78
	大石尚史	79
	加藤志菜	81
	佐藤大歩	84
	山本伊織	86
	安藤鞠里	87
	木下知樹	89

計良桃子	91
小谷ゆら	92
有賀裕晃	93
小野優花	94
林穂乃香	96
令和四年度 薬学部 FD 活動報告	98
令和三年度、四年度 生涯教育委員会活動報告	101
令和四年度 薬学セミナー報告	103
・講座紹介・卒業論文課題一覧	
講座紹介	105
薬学部医療薬学科十四期生卒業論文課題一覧	152
・令和四年度 大学院薬学研究科 博士取得者	
	158
・評議委員会便り	
令和五年度 愛知学院大学薬学会総会議事録	160
・薬学会会則および各種規程	
	170
・名誉会員一覧	
	186
広告協賛	
編集後記	